

【声明】総長予定者決定を受けて訴える

有権者の意向を尊重して選ばれた新総長に、 前総長解任の全体像調査を要請する

北海道大学総長選考会議は9月2日総長予定者を決定するための会議を行なった。そこでは合議による総長予定者の決定ができずに投票が行なわれ、学内の意向投票でも最多の得票を得た寶金候補が総長予定者と決定した。

今回の総長選考は、前総長の解任という前代未聞の事態を受けて始まったものである。学内に説明することなく総長解任の申し出を行ない、その後選考方法の改悪を行なった総長選考会議を、私たちは批判し、その下で次の総長選考を行なうことに反対してきた。そのような状況下で強行された意向投票では、現状を是としない有権者の意向が明らかになった。総長選考会議において、意向投票の最多得票者が総長予定者となったことは、委員の多くが意向投票結果を尊重したものとする。

総長予定者に決まった寶金氏は、北大職組の公開質問状1番目の質問「前総長の解任 過程に関して、学内に検証の場を設けるべきではないでしょうか」に対して「全体として、私を含めて北大の構成員が納得できる説明がなされていないことについて、同感です。・・・可能な限り、全体像の調査を考えています」と回答している。私たちは寶金氏が今後もこの回答を堅持し、総長就任後には大学の社会的信頼を回復すべく、前総長解任全体像の調査に取り組むことを強く要請する。また、この間の総長選考会議が行なった選考方法の変更の妥当性についても検証し、より民主的な総長選考が可能な方法に再変更すべきと考える。

2020年9月3日

北海道大学教職員組合

kumiai@hokudai-shokuso.sakura.ne.jp

<https://hokudai-shokuso.sakura.ne.jp>